中国の地方志と国立国会図書館における所蔵状況
― 2022 年 3 月時点 ―

丹治　美玲
（利用者サービス部人文課（関西館アジア情報課在籍時に執筆））

はじめに

地方志とは、ある地方の自然や社会の各方面の歴史と現状とを記述した総合的な著作である[1]。その歴史や全体像は、2010年の『アジア情報室通報』掲載記事「地域の百科事典―中国の地方志と国立国会図書館における所蔵状況―」[2]で紹介されている。本稿では、上記記事以降の地方志編纂の動向、国立国会図書館（以下、当館という。）の最新の所蔵状況について紹介したのち、当館で収集に努めている「省級志（省や直轄市の単位で編纂する地方志）」の主題について簡単に触れたい。

Ⅰ　近年の地方志編纂の動向

1980年から2000年にかけて中華人民共和国の最初の地方志編纂（「首輪（第一サイクル）」の地方志と呼ばれる）が行われた後、概ね2002年から2003年頃にかけて、各地域で次の地方志の編纂計画が立てられた[3]。2006年に国務院が制定した「地方志工作条例」[4]では、地方志は概ね20年ごとの改訂が推奨され、2015-2020年の事業計画「全国地方志編纂事業発展計画綱要2015-2020」[5]では「第二輪（第二サイクル。記述対象期間が概ね2000年代または2010年代までとなっているもの）」の三級志（省級志及び市・県の単位で編纂する地方志）の出版を2020年までに完了させることが目標とされた。

「第二輪」の地方志の編纂作業は、コロナ禍においても、ほとんどの地域において大きな遅延なく進められたようである。2021年1月28日付の中国地方志指導小組[6]の文書「中国地方志指導小組による全国地方志系統「両全目標」[7]完成状況に関する通報」[8]によれば、2020年末時点で、三級志の総数5,395件のうち、96.35%の編纂、91.15%の出版が完了、省・市・県の総合年鑑については、全3,212件のうち、100%の編纂、88.51%の出版が完了している。

また、「全国地方志編纂事業発展計画綱要2015-2020」には、情報化の推進もうたわれており、現在、新方志（中華人民共和国期に編纂された地方志）の中には、地方志編纂室のウェブサイトで目次や全文を見られるようになっているものも少なくない。省レベルの地方志編纂室ウェブサイト等は、国立国会図書館リサーチ・ナビ「AsiaLinks 地名・地図：中国・香港・マカオ・台湾」[9]でも紹介している。

「全国地方志編纂事業発展計画綱要2015-

---

[1] 松本浩一「資料紹介 中国の地方志」
https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/tojo/archive/Kanpo/Vol13No4/matumoto.html
※インターネットの最終アクセス日は、2022年5月12日、【　】内は国立国会図書館請求記号である。

[2] 齊藤まや「地域の百科事典―中国の地方志と国立国会図書館における所蔵状況―」『アジア情報室通報』8(1), 2010.3
https://rnavi.ndl.go.jp/asia/entry/bulletin8-1-2.php

[3] 当時の計画をまとめて刊行した資料として、『全国第二轮修志工作文件及志书篇目汇编』【GE213-C129】がある。

[4] 地方志工作条例（中華人民共和国中央人民政府ウェブサイト）
http://www.gov.cn/zhengce/2020-12/27/content_5573527.htm

[5] 国务院办公厅关于印发全国地方志事业发展规划纲要（2015－2020年）的通知（中華人民共和国中央人民政府ウェブサイト）
http://www.gov.cn/zhengce/content/2015-09/03/content_10130.htm

[6] 中国社会科学院の管轄下にある組織。全国に設置された編纂委員会と連携して、地方志編纂事業を行っている。

[7] 三級志及び省・市・県の総合年鑑の出版を完了するという目標。

[8] 欽州市人民政府ウェブサイトに転載されており、閲覧できる。
中国地方志指导小组关于全国地方志系统“两全目标”完成情况的通报
http://zwgk.qinzhou.gov.cn/auto2575/bmwj_3685/202105/t20210526_3535776.html

[9] https://rnavi.ndl.go.jp/asia/entry/maps-chn.php

2020」に代わる次期事業計画の策定も進められており、2019年12月までに「全国地方志編纂事業発展計画綱要2021-2025（全国地方志事业发展规划纲要2021-2025）」の意見募集稿、2021年3月までに審査稿[10]が作成されている[11]。本稿執筆時点で筆者は計画の本文を確認できていないが、中国地方志指導小組の組長を務める謝伏瞻氏の講話をまとめた脚注11の記事を参考に推測するならば、「両全目標」の達成、「第三輪（第三サイクル）」の地方志編纂計画の立案及び編纂のための体制整備等が盛り込まれているようである。

Ⅱ　国立国会図書館における地方志の所蔵状況

ここでは、旧方志（中華民国期以前に編纂された地方志）も含む当館所蔵の地方志について、2010年時点からの変更点を中心に紹介する。

まず、1985年までに受け入れ、2010年時点では東京に配置されていた地方志のうち、中華民国期以降に刊行されたものは、2013-2014年に東京本館から関西館に移送しており、現在はアジア情報室で所蔵している（清代以前に刊行された地方志は、東京本館古典籍資料室で所蔵している）。

また、関西館に移送した資料の多くは、2010年時点では、カード目録、冊子体の蔵書目録等でしか検索できなかった[12]が、その後書誌データの遡及入力が進んでおり、「中國方志叢書」シリーズ[13]なども含む旧方志の影印等の多くが、現在は国立国会図書館オンライン（https://ndlonline.ndl.go.jp/）で検索できるようになっている[14]。

収集に関しては、省級志、省年鑑や「中国地方志集成」シリーズ[15]を中心に、2010年以降も収集を続けている。なお、2022年3月現在、Ⅰでも触れた「第二輪」の省級志の所蔵数は約700点である（未整理を除く）[16]。これは、前述の「中国地方志指導小組による全国地方志系統「両全目標」完成状況に関する通報」掲載の省級志出版予定数2,276件のおよそ3割程度の分量である。

Ⅲ　省級志の各巻の主題について

最後に少し趣向を変えて、当館所蔵資料（図1）や中国国家図書館所蔵資料の書誌情報、地方志編纂室ウェブサイトの情報などを基に、省級志の主題面の特徴について、いくつか事例を挙げる形で紹介してみたい。

新方志のうち省級志は、数十冊から百冊以上の規模で刊行されており、「大事年表（大事记）」等の総論・通史に相当する巻のほか、「公安志」「統計志」「人物志」「科学技術志」など、政治、経済から科学技術に至るまで、主題ごとに巻を分けて刊行されるのが一般的である。省級志の主題を端的に表す各巻のタイトルは、各省とも主要なものは概ね一致しつつも、地域の特色等に応じてそれぞれ違いが見られる。また、「首輪」と「第二輪」との間も同様で、主要なものは概ね一致してはいるが、差異も見受けられる。

例えば、内蒙古自治区志には「草原志」[17]、山東省志には「海洋及び漁業志」[18]がある。文

[10] 上部機関や関係機関（本計画の場合は国務院が該当）に提出し、審査を求めるための草稿を指す。
[11] 謝伏瞻「奋力推进全国地方志事业向法治化高质量转型升级—在2021年全国省级地方志机构主任工作会议暨中国地方志学会第七次会员代表大会上的讲话」『中国地方志』2021(2), 2021.8
[12] 脚注2の記事を参照。
[13] 台湾の成文出版社が刊行した影印版の大規模な旧方志の叢書。関西館アジア情報室では、華南地方【GE197-2】、華中地方【GE197-3】【GE197-C2】、華北地方【GE197-4】、東北地方【GE197-5】、塞北地方【GE197-6】、西部地方【GE197-7】、臺灣地區【GE197-8】【GE197-C1】の計4,000冊以上を所蔵している。
[14] 和装の資料など、現在でも検索できないものも少数残っている。
[15] 複数の出版社が共同で刊行している旧方志の影印版叢書。「○○府縣志輯」「寺觀志專輯」など、地域別や主題別の下位シリーズごとに刊行されている。
本稿執筆時点で、関西館アジア情報室では33シリーズ約1,000冊を所蔵している。
[16] 「○○省志」「○○（省名）通志」等の共通のタイトルのもと、多数の巻が刊行されている資料の冊数を筆者がカウントして算出した。
[17] 『内蒙古自治区志：草原志』【GE376-C52】
[18] 『山东省志：海洋与渔业志：1986-2005』【GE369-C33】

化資源を扱った巻は「文物志」、観光資源を扱った巻は「旅游志」とタイトルがつけられることが多く、また各1冊程度であることが多いが、名所旧跡の多い北京では、『北京志』の「首輪」には「文物志」のほかに「長城志」「故宮志」等、「第二輪」には「旅游志」のほかに「明十三陵志」「雲居寺志」等があり[19]、世界遺産クラスやそれに準じる主要な名所ごとにも個別に地方志が編纂されていることがわかる[20]。

「第二輪」のみに見られる各巻タイトルの中には、近年、社会的に意識されるようになった主題を取り上げたと思われるものも存在する。例えば、『福建省志』や『陝西省志』に「知的財産権志」[21]、『甘粛省志』や『四川省志』等に「障碍者事業志」[22]がある。

特定のイベントや出来事を取り上げたものもある。例えば、2007年にスペシャルオリンピックスが開催された上海では、「上海スペシャルオリンピックス分志」[23]、2008年に夏季オリンピックが開催された北京では「北京オリンピック志」[24]が編纂されている。このほか、地方志に該当すると言えるかは不明だが、2008年5月に発生した四川大地震の災害対応や震災からの復興を主題とする『汶川大地震災害対応・復興志』は、中国地方志指導小組、国家発展改革委員会[25]等によって国を挙げて編纂され、全11冊という大部な資料が刊行されている[26]。

脚注11に挙げた講話の中で、謝伏瞻氏は、重要性の高いテーマ（専題）について専題志の編纂を進めるべきとし、新型コロナ対応志、香港志、抗日戦争志、南海志等を例示している。今後刊行されるものも含め、省級志などで見られる個別具体的な主題は、編纂当時に中国政府や中国社会が強く意識している事項を端的に指し示すものと言えるかもしれない。

おわりに

本稿で紹介したことは、当館の所蔵状況を除けば、研究者の方なら既にご存知のことばかりであるかと思う。初学者の方、中国の近現代史に関心のある方に、地方志という出版物に興味を持っていただく切っ掛けになれば幸いである。

図1　当館所蔵の「第二輪」省級志の一例

（たんじ　みれい）

[19]『北京志 96A 文物卷 文物志』、『北京志 97A 世界文化遺产卷 长城志』、『北京志 97B 世界文化遺产卷 故宫志』、『北京志：旅游志：2001-2010』、『北京志：明十三陵志』、『北京志：云居寺志』【いずれも GE367-C70】

[20] 類例として、河北省志にも「長城志」がある（『河北省志 第81卷 长城志』【GE365-C37】）。

[21]『福建省志：知识产权志』【GE437-C38】、『陝西省志 第14卷 知识产权志』【GE381-C26】
なお、中国国家図書館の文津搜索(http://find.nlc.cn/)でも、この2件のみがヒットする。

[22]『甘肃省志：残疾人工作志：1949-2010』【GE383-C36】、『四川省志 第15卷（残疾人工作志：1986-2005）』【GE422-C55】
なお、中国国家図書館の文津搜索(http://find.nlc.cn/)でも、この2件を含め「第二輪」の地方志と思われる資料のみがヒットする。

[23]『上海市志：1978-2010 上海特奥会分志』【GE396-C195】

[24]『北京志 北京奥运会志』【GE367-C70】

[25] 国家发展改革委员会
https://www.ndrc.gov.cn/
（参考）国家発展改革委員会（Science portal China）
https://spc.jst.go.jp/policy/science_policy/organization/org_03.html

[26]《汶川特大地震抗震救灾志》编纂工作实施方案（四川省情网）
https://www.scdfz.org.cn/ztzl/zdzzzt/wctddzkzjzz/content_1750
【四川日报】中国地方志指导小组向我省赠送《汶川特大地震抗震救灾志（四川省情网）
https://www.scdfz.org.cn/ztzl/zdzzzt/wctddzkzjzz/content_5776
なお当該資料は当館未所蔵。